

三重縣公報(日刊) 昭和二十五年三月二十六日 第三種郵便物認可

三重縣公報

第四千九百八十七號

昭和十九年七月十日

月 曜 日

告 示

●三重縣告示第六百一號

志摩郡國府村字中瀬三、七、一三ノ一番地々先公有水面
理立地參百七拾六坪六合四勺ヲ國府村ノ區域ニ編入シ
「中瀬」ノ字名ヲ附シ昭和十九年七月十日ヨリ之ヲ施行
ス

昭和十九年七月十日

三重縣知事 持 永 義 夫

彙 報

●町村助役選任認可

昭和十九年七月一日

一 志那松ヶ崎村助役 刀 根 吉 藏

●情報局編輯 印刷局發行

●寫眞週報掲載内容(七月五日號)

- 激化する航空戦
- 大陸作戦急速に進む
- 火砲は續々前線に送られる
- 決戦輸送に女學生頑張る
- 備へを更に強化せよ
- 北九州の教訓——
- 覆面文藝——涙
- 漫画
- わかつた！これだ！
- 増産手帖——麥の堆肥をつくらう
- アトリエ工場
- 百貨店の工場化

一人で見ずに回覧を！

そして壁新聞に利用して下さい

陸

通牒照會

●教第三〇九五號

昭和十九年七月十日

内 政 部 長

各市町村長殿
各中等學校長殿
各國民學校長殿
各青年學校長殿

第七回航空夏期大學ニ關スル件

別記要項ノ如ク大日本飛行協會並ニ朝日新聞社共同主催ノ下ニ航空知識普及向上ノ目的ヲ以テ標記大學開催セラルルニ付教職員並ニ其ノ他有志者ノ參加聽講方勸奨依頼アリタルニ依リ精々御配意煩度シ

第七回航空夏期大學開講要項

一、趣 旨

大東亞戰勢發シテ茲ニ四年奇烈ナル戰局ハ航空戰ヲ中心トシテ急展開サレントシテ居ルノ秋將來ノ國家ヲ擔フベキ第二ノ國民ノ直接指導教育ニ當ラレル學校教員青少年指導者ヲ集メ斯界ノ權威者ヲ講師ニ委嘱シ第七回航空講座ヲ開講シ之ヲ通ジ第二ノ國民ニ航空ノ基礎智識ト刻下最モ必要トスル航空機増産ニ關スル正シキ智識ヲ普及シ我國航空戰力飛躍ノ基礎ヲ建設セントス

二、主 催 大日本飛行協會 朝日新聞社

三、後 援 陸軍省、海軍省、文部省、航空局

四、役 員 會長 田中館愛橘 (理學博士)

副會長 堀 丈夫 (大日本飛行協會副會長)

同 村山長舉 (朝日新聞社長)

五、參加資格及人員 資格 高等專門學校教員、中等學校教員、國民學校教員、青年指導者、其ノ他有志者五百名

六、講 場 金貳圓(教材費ヲ含ム)

七、會 場 大阪帝國大學講堂

八、時 期 八月一日(火曜)ヨリ四日間

九、申 込 方法 聽講希望者ハ七月二十日迄ニ住所、氏名、年齢、奉職先ヲ明記シ聽講料貳圓ヲ添ヘテ大阪市北區中之島朝日新聞社内航空夏期大學係宛ニ申込ムコト

一〇、講義科目 講師、時間 (敬稱略)

一、航空發達史 木村 秀政 (東大航空研究所員) 二時間

二、航空機學 第一部 小川太一郎 (東大教授工學博士) 八時間

第二部 木村 秀政 (東大航空研究所員) 六時間

三、發動機學 田中 敬吉 (東大教授工學博士) 四時間

四、航空機工作法 三木 鐵夫 (阪大教授) 四時間

五、航空工業 山路規矩夫 (川西航空機工作研究課長) 二時間

特別講義 航空機増産 大西瀧治郎 (軍需省航空兵器總局 總務局長 海軍中將) 二時間

合 計 二十八時間

一、教 材 全講義ヲ取覽メ一冊トス

二、時 間 割 一日約六時間二時間單位

一三、航空映畫會 講座終了後航空映畫會ヲ開催一般ノ入場モ歡迎

●軍厚第二三〇三號

昭和十九年七月十日

内 政 部 長

各 地方事務所長殿
各 市町村長殿
各 學校長殿

滿蒙開拓青少年義勇軍指導員募集ニ關スル件

我國不動ノ國策タル滿蒙開拓建設ニ於ケル青少年義勇軍ノ使命ニ鑑ミ其ノ訓練途上ニ於ケル指導者ノ地位ガ如何ニ重要ナルカハ絮説ヲ須ヒザル所ナリ之ガ爲メ本制度創始以來七年、本縣ニ於テモ國家ノ要請ニ應ヘン々隊員ヲ送出シ已ニ一千二百餘名ニ達セリ而シテ之ガ訓練指導ヲ郷土出身ノ練達優秀ナル幹部ニ依ツテ行ハルルハ尤モ理想トスル所ナルモ實狀ハ必ズシモ然ラザルモノアルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ茲ニ於テ本年度

ハ早期ニ廣ク優秀ナル人物ヲ簡拔シテ之ニ所要ノ訓練ヲ施シ以テ部隊編成ノ完壁ヲ期セントス是ガ爲左記要綱ニヨリ幹部指導員ヲ募集スルコトト相成タルニ付テハ貴管内ニ於ケル適格者ヲ精々多數御推薦相成度右依頼ス

記

滿蒙開拓青少年義勇軍郷土部隊指導員募集要綱

一、指導幹部ノ種類

1、中隊長 2、教學指導員 3、農事指導員

4、教練指導員 5、經理指導員

二、應募資格

1、經歷 中等學校以上ノ學校卒業者又ハ同等以上ノ實力ヲ有スルモノニシテ左ノ各項ニ該當スル者

(1) 教學指導員ハ青少年教育ニ經驗ヲ有シ隊員指導ノ能力アル者

(2) 農事指導員ハ農事ニ經驗ヲ有シ隊員指導ノ能力アル者

(3) 教練指導員ハ陸軍豫備役尉官又ハ下士官(含兵長)ニシテ成ルベク青少年訓練ニ經驗ヲ有スル者

(4) 經理指導員ハ庶務、經理ノ能力アル者

2、年齢 二十五歳以上四十歳迄ノ者

三、應募手續

1、一般應募者教練指導員ヲ除クハ左ノ書類ヲ縣軍事厚生課ニ提出シ、地方長官ヨリ大東亞省ヘ推薦ス

2、教練指導員ハ左ノ書類ヲ縣隊區司令部ニ提出シ、司令部ニ於テ決

定シ關係書類ヲ陸軍省人事局恩賞課ニ送附シ、陸軍省ヨリ大東亞省ニ推薦ス

① 願書(本人自筆末尾様式)

一通

② 履歷書(本人自筆)

一通

③ 戸籍抄本(在籍全部ヲ記載セルモノ)

一通

④ 身元證明書(市町村長發給ノモノ)

一通

⑤ 醫師ノ身體検査書

一通

⑥ 最近撮影ノ手札型寫眞

一葉

⑦ 家族調査書

一通

四、募集締切日ニ於て

1、締切期日 第一回 七月十日 第二回 八月十日

2、銓衡 各締切毎ニ其ノ都度銓衡期日及場所ヲ通知シ銓衡ノ上採用者ヲ決定ス

五、養成及手當

1、義勇軍指導員候補者トシテ採用セラレタル者ハ原則トシテ内地(茨城縣東茨城郡鉾田村所在滿蒙開拓幹部訓練所)及現地(哈爾濱開拓指導員訓練所)ヲ通ジ概ネ一箇年ノ訓練ヲ實施ス但シ事情ニヨリ短縮スルコトアリ

2、内地及現地訓練中ハ手當月額概ネ五十圓乃至百五十圓ヲ支給、妻子手當トシテ一人當五圓ヲ給ス手當ハ履歴(從來ノ收入額、年齢、學歷其ノ他)家族狀態ヲ考慮シテ之ヲ定ム

3、内地及現地訓練中ノ食費等(月二十圓程度)ハ自辨トス

4、渡滿ニ際シテノ旅費及支度料ヲ支給ス(任地其ノ他ニヨリ二百圓十五圓以内迄)

見習訓練手當支給標準

金額

大學 一〇〇圓乃至一七〇圓
專學 九〇圓乃至一六〇圓
師範卒 八〇圓乃至一五〇圓
中卒 七〇圓乃至一四〇圓
青、國卒 六〇圓乃至一三〇圓

備考

1、中隊長ハ右支給標準ニ前歴(名譽職等)ヲ考慮シ他ノ見習指導員ニ比シ均衡ヲ保ツタメ一〇圓以内ノ増給ヲ認ム

2、軍曹以上ノ下士官ハ中等卒ト認ム

3、中退者ハ同卒業業者ヨリ概ネ五圓ヲ減ズ

4、判任官及同待遇ノ履歷アリタル者ハ少クトモ中等學校卒業程度以上ト認ム

六、訓練終了者ノ待遇

1、身分 所定ノ訓練ヲ終了シタル者ハ訓練本部職員トシテ採用シ義勇隊訓練所ニ配屬セシム

2、俸給

(4) 本 俸 履歷ヲ考慮シ訓練本部ニ於テ本俸ヲ定ム、中隊附幹部ノ俸給ハ概ネ六十圓乃至二百三十圓

口 勤務地手當 勤務地ニ依リ差異アルモ概ネ本俸ノ二割五分ヲ支給ス

ハ 冬季手當 十月ヨリ翌年三月ニ至ル六ヶ月間月額俸給ノ一割五分ニ相當スル額ヲ給ス

二、職務手當 中隊ニ勤務スル者ハ左ノ手當ヲ給ス

中隊長 十五圓 其ノ他 八圓

三、家族手當 同一家族内ニ在ル扶養義務ヲ有スル配偶者、直系尊族ニシテ滿六十歳以上ノ者又ハ直系卑屬及弟妹ニシテ滿十八歳未滿ノ者ニ支給ス、但シ直系尊屬及弟妹ハ職員ト同居スル者ニ限ル、事實上配偶者ト認メ得ベキ者、不具癡疾者ニシテ自活能力ナキ者及十九歳以上ノ直系卑屬ニシテ修學中ノ者ハ本部長ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り之ヲ前項ノ家族ト看做ス

一、配偶者 月額十圓

二、其ノ他ノ家族 一人ニ付月額五圓

宿舍其ノ他 宿舍ハ之ヲ無料貸與ス、食費等月額三十圓程度ハ自辨トス其ノ他事情ニヨリ別居手當、語學手當等ヲ支給スルコトアリ

3、將來 三箇年ノ義勇軍ノ訓練ヲ終了シタルトキハ原則トシテ之ヲ引率シテ義勇隊開拓團指導員ニ移行シ日滿兩國政府ヨリ開拓指導員ヲ囑託セラル

(願書様式)

願書

本籍地
現住所

氏名

年月日生

今般滿蒙開拓青少年義勇軍トシテ募集ノ要旨ニ從ヒ應募致度書類相添へ及御願候也

年月日

右氏名

大東亞大臣青木一男殿

私儀

昭和十九年七月十日印刷發行

三重縣公報(第三種郵便物認可)

三
重
縣
廳

三重縣津市下部田一六一九番地ノ二
印刷所
振替口座番號名古屋一四五〇六番